

あるポスターがニュースで取り上げられた。ポスターについては、いろんな人たちの意見がツイッター上にあがったらしい。ポスターそのものがどうであれ、私は人生の最期をどう過ごすかを考えるきっかけになった二人である。

「あなたなら、どんな最期を過ごしたいですか？」今までに考えたこともなかった。人はいずれ死を迎えることは頭では分かっているけど、自分を含め家族の死などを考えたことが無かった。私はまだまだ元気。空気のような存在で、いて当たり前。家族。人生80年だからまだまだと考えていたけれど、気づけば父母ももう70代に突入。南海トラフ地震もだんだんと近づいてきている。明日何があってもおかしくない。そう考え、朝の渋滞のなか、テレビから聞こえてくる人生会議の言葉を考えながら、1時間あまり車の中で考えることができた。父や母、夫はどう思っているのだろう。家族の思いも知りたくなかった。

エンディングノートは耳にしたことはあるが、そもそも「人生会議」とは何かと。ACP(アドバンス・ケア・プランニング)は「人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族

人生会議

等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組み」と定義されている。このACPをより浸透させるため誕生した愛称が「人生会議」だということだ。

死を迎えようとする本人の思いと家族の思い、医療現場からの意見が違っているのは仕方がないことだろう。だからこそ、もしもの時のために、自分が望む医療やケアについて前もって考え、家族や医師たちと何度も話し合う必要があるのだと思う。そして家族には自分の望む最期を迎えさせてあげたいと……。

最期はどこで迎えたいか？延命治療はするのか？などは元気な時だからこそ話しておけること。縁起でもないといけないのではなく、家族みんなで向き合いたい人生会議。今年のお正月にでもやってみようかな。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎880・6569